

認定こども園にじいろ・かっこう幼稚園 研究重点
心を動かし、思いをもって遊び込む幼児を育むための保育者の援助と環境構成

実践事例 4歳児 きりん組 『年度を超えて～長時間保育の中での伝承・子どもたちの想い～』



憧れから「自分もやってみたい」の気持ちの芽生え

昨年度、年上の子たちがクラス活動の中で連日のように対抗ドッジボールをしていた姿を受けて、当時年少だった子どもたちは憧れや興味を抱いて「見に行こうよ」「一緒にやってみたい！」と声を上げていました。一方で、やってみたい気持ちはあるものの、ボールが飛んでくるのを怖がる子や「負けるかもしれないからやりたくない」と消極的な様子の子も見受けられました。今回の研究だよりでは、今まさに皆で対抗ドッジボールを楽しんでいる4歳児の実践事例を紹介します。

教育時間(年齢別活動では)



前向きな子、怖がっている子、複雑なルールの理解が難しい子がいるみたい。クラス全体ですぐに年上の子たちとドッジボールに入れてもらうよりも、興味を活かしながら、段階的に遊びを深めていけるように配慮してみよう。



【実例】

「転がしドッジボールからスタート」

「転がる玉から逃げるだけ」というシンプルなルール・保育者が個に応じたスピードで転がすので逃げやすい・当たっても痛くないボールを使う・復活タイム有り・繰り返しできるなど、遊びに安心感を抱けるよう配慮しました。

→一人一人が楽しめる大人気の遊びに！

参加することを喜び、徐々に「先生の代わりに転がしたい！」という子も出てきました。そのうち、教育時間内だけでは満足せず、もっとやりたいという思いの子も増えていきました。

長時間保育では(異年齢活動)



- ・「おはよう！ボールで遊べる?!」「お迎えが来るまでキャッチボールしようよ」(長時間保育内でもたっぷりボールに触れたい!)
- ・上手になったから対抗ドッジに入りたいなあ。
- ・外野?内野?当てたら戻れるの?対抗ドッジって楽しそうだけどルールが難しそうだな…。
- ・大きい子とやるのはやっぱり怖いかも…。



- ・長時間保育中もドッジボールやキャッチボールで遊びたい様子が見られる。
- ・異年齢と触れ合って遊ぶと、刺激を受けているようだ。(憧れや葛藤など想いの変化も大切にしたい。)
- ・職員が入れ替わる朝夕だからこそ、職員で共通理解をもつようにしよう。

【実例】

ボールで遊ぶ機会をたくさん設けました

- ・早朝保育内、延長保育内でも園庭やホールでたっぷりボール遊びができるように環境の構成や子どもの姿を職員間で共有しました。
- ・的当てや友達とのキャッチボールなど、ドッジボールに繋がる遊びも提示しました。
- ・年上の子たちに「小さい子が対抗ドッジボール気になっているみたい」と伝えておきました。
- ・入りたい子は年上の子たちの対抗ドッジボールに入れもらいました。
- 異年齢で遊ぶ中で、大きな子のスピーディーなボールに徐々に慣れ、「怖い」ではなく「楽しい」と感じる子が増えてきました。
- ・長時間保育内で対抗ドッジボールを経験した子を中心に、教育時間でも「対抗ドッジボール」を再現しようとする様子も見られ始めました。

～職員の話し合いより～

◎「できた」の積み重ね

遊びを徐々にステップアップしたことで「できた！」の経験の積み重ねが安心感や自信に繋がり、子どもたち自身も成長を感じながら楽しむことができました。

以前は「負けるかもしれないからやりたくない…」と言う子どもが多かったクラスですが、小さな「できた！」を積み重ねたことで、勝敗のある遊びにも意欲的に参加するようになりました。経験の積み重ねが更なる遊びへの意欲に繋がることを改めて感じました。

◎感情の揺れ動きが心の成長に繋がる

「ボールを当てられたらどうしよう」など遊びの中で様々な感情の揺れ動きが見られました。プラスの感情だけでなく、「負けた」「悔しい」といったマイナスな感情も成長のチャンスと捉え、気持ちを受け止め、一緒に悔しがったり、「もう1回チャレンジしてみよう」などと励ましたりすることで、子どもたちの気持ちが少しずつ変化していくのを感じ取れました。遊びが深まっていく中で、子どもたちの心の成長も感じました。

◎異年齢での活動（少人数での取組、遊びの伝承）

朝夕の異年齢活動で少人数で取り組んだことで、ルールを丁寧に知らせることができました。また、保育園児の夕方の経験をクラス活動の中で幼稚園児にも共有することで子どもたちの「やってみたい」がさらに膨らみ、「もっとやりたい」「明日もやりたい」という気持ちから、遊びがより深まっていったと感じます。



話し合いのあと、ドッジボールもさらにレベルアップしています。

教育時間(年齢別活動)では

- ・〇〇チームがんばるぞ、えいえいおー！
- ・あの子と同じチームになりたいよ～！
- ・外野になったら絶対に僕が投げたいんだ！



- ・ルールが複雑な対抗ドッジボールになっても楽しめるようになり、発信力の高い子を中心に外野決めをしたりチーム分けの方法を気にしたりする声も出てきました。
- ・チーム分けや際どいボールでの判定では、子ども同士の意見が異なる場面も多くあり、保育者が想いを汲み取ったり、友達との関わりの仲立ちをしたりする必要がある場面も見られます。



- ・今後も皆で楽しく遊ぶための方法を子どもたちと一緒に相談しながら考えてみよう。
- ・一人一人の想いに丁寧に寄り添い、子ども同士のやりとりする力の成長も見守っていこう。

長時間保育では(異年齢活動)

- ・引き続き長時間保育の中でボールを用いて遊ぶ機会を保障していたことで、今年度の年少の子どもボールに親しみをもって遊んでいます。
- ・ドッジボールをすることもあります。人数が少なくなってきたときや少人数で遊ぶときにはサッカーに変えて楽しんだり、昨年度年上の子たちから教えてもらった「カタキ」を楽しんだりする姿があり、遊びの広がりを感じます。
- ・年少や未満児の子がいるときの遊び方やルールに気付くことができるよう、自分たちの体験を振り返りながら考えられるようなサポートをしています。

- ・サッカーしよう！
- ・大玉転がしドッジなら、年少さんもできるんじゃない？



- ・教育時間と長時間保育の遊びの繋がりを、今後も職員間で連携しながら支えていこう。
- ・年中児の姿に刺激を受けている他クラスの子達の姿も大切にしていきたい。